



尾河院次郎白雲上

特別  
イ 4  
3163  
55(1)



頁  
14  
3163  
55(1)

百首和歌

永久四年十一月廿日

題

春十八首

元日

餘寒

春日

春曙

遊絲

賭弓

春日祭

石清水臨時祭

志賀山越

稻垣何詣

未發花

紅梅

桃

落花

躑躅

雉

殘雪

蛙

夏十二首

夏首

〇一

賀茂祭

夏夜

夏草

瞿麥

扇

樹陰

避暑

夏虫

橋川

夏

蟬

水雞

秋十八首

殘暑

晚立

秋風

七夕後朝

八月十五夜

九月九日

秋夜

曉

嵐

稻妻

糧田

草香

葛

作

秋山

和虫

鈴虫

螢

冬十二首

霽

初雪

野初雪

落葉

大雪

折柴

菊

衾

北窓卷

貢調

仙名

舊年之書

冬十首

忍冬

隔一秋

經月

經年

隔冬

不見書

且見

寢覺

待人

別志

雜三十首

雲石齋古桂之仙妓  
女宮眼

星水池社小唐老  
海

玉湯原故柳萍七  
泉邸王眼君

舟車

蟻  
蛛

笛  
篋

作者

延喜行左京大夫源朝臣敦仲非敦伯 六条右大臣敦房之男  
 兼越前守心位下藤原朝臣仲实  
 兼平之頭后位下源朝臣俊賴  
 五位后位下源朝臣忠房

淡路位下行皇太后女小進源朝臣兼昌

常陸 肥後守定成女本名肥後 皇太后官女房

入進 同定成女 六条院女房



百首和歌

元日 卷十八首

春をいづのられ志のやふとられ  
 うふとせふなりふけの飛 敦仲  
 兼代は喜れなりぬの音なり  
 清くすらるるにありはけ 仲実  
 うららかにさむらひをらすうらみ  
 うららかにさむらひをらすうらみ 俊賴  
 うららかにさむらひをらすうらみ 忠房

冬月...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

餘り

...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

けり此きりしもみえす有きる 大を

書目

たむくもよし〜此種けりあま〜起は

法ふとあまのきつる書目日く〜 歌伴

のりも〜あはけ〜のけり〜は〜と

けり〜と〜あ〜の〜けり〜と〜 伴英

あま〜あまの〜あまの〜あまの〜あまの〜 俊頼

くれあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

日けり〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 忠房

けり此日の起りぬとを記しけりたれや  
くれす〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 善昌

花もあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

書目日〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 常陸

日〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あま〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 大を

書目

わ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 歌伴

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

まゝいふはそめてしれさるん  
いふれあふりのけさるん  
まゝいふはそめてしれさるん  
いふれあふりのけさるん  
まゝいふはそめてしれさるん  
いふれあふりのけさるん  
まゝいふはそめてしれさるん  
いふれあふりのけさるん  
まゝいふはそめてしれさるん  
いふれあふりのけさるん

仲実

俊頼

忠房

善昌

常隆

おとせくさるるまはわき月丸  
おとせくさるるまはわき月丸  
おとせくさるるまはわき月丸

遊線

太

うらまされすあつるあつる  
あゆみ行をれあつるあつる  
ひりりあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつる

那伴

伴実

俊頼

忠房











いふけてしあつらさきにきり 大と

未發花

あゝ書とて好まらるけや梅さくら

あゝと入目小梅さくらさくら 歌仲

まられと野つれさくらさくら 来て

さくらさくらさくらさくら 仲実

さくらさくらさくらさくら 後頼

さくらさくらさくらさくら 後頼

さくらさくらさくらさくら 出房

さくらさくらさくらさくら 出房

さくらさくらさくらさくら 花れ来れ

さくらさくらさくらさくら 鳥居

さくらさくらさくらさくら や梅梅

さくらさくらさくらさくら 常陸

さくらさくらさくらさくら 大を

さくらさくらさくらさくら 大を

紅梅

さくらさくらさくらさくら 花れ来れ

さくらさくらさくらさくら 花れ来れ

さくらさくらさくらさくら 花れ来れ

新病もやわらへなほあつらん 仲実  
 くれき井たじあえにあくうしひすれ  
 一志れ多はつとにもあうれ 俊頼  
 中ゆも事もなううしとくれとれあの中  
 ちうらにそむくくれき井た梅 出房  
 みうくれあくしあきれむとれとれ  
 うすられあわれあもろうす 愚品  
 きとらひあきかゆりあうていし  
 くれき井あくは梅とれ 常陸  
 いろはうもあうしとあれくれき井小

いまはうきそむく梅れとれつれ 大色  
 枕歌  
 かきあつに校はうあうすりたれ  
 くれも中も女紙あきあきや志 歌伴  
 うすくあうあうあきあつらりたれ  
 志いあすしむくあきあきあけり 仲実  
 きしれうあきあきあきあきあきあき  
 うあきあきあきあきあきあきあき  
 けきにうりあきあきあきあきあき  
 うらうあきあきあきあきあきあき  
 忠房

まるくはるきとらうきと彩んまらむ(乃)  
 かふたねよまけつひめ桃の巻 魚昌  
 わらうねくもりたけの巻はさきあふらと  
 うらよすくさきまはるしり 常陸  
 こひせつんまはれしれとてゆめたりれ  
 まさるきまはるきま川崎にあり 大空

落花

まらふ川ふたつれてつれたうすゆくは  
 夢のねくされた枝とそみる 龍伴  
 まさる吹くはれのあふりたあれ下は

とれうさそなをききううりけり 仲実  
 おきあけのすきまはうらたあくらく  
 とれたあつゆふ波そあえあふ 俊頼  
 けくはらちりあふやとれあれたもは  
 みよあしんたねよあふ 出房  
 本れもはらりつりつりつりあふ  
 花はくさつとふいさつり常陸 魚房  
 花のせふらりりりり花はあけは  
 常陸  
 常陸  
 のころれくたそやちるきんはくは花

朽すれぬ方も忘れぬ世に 大を

躰躰

玉川のさうありてやせらさう

日く枝よ花れはさきにさうれ 歌伴

くれみ井れありてれまのさう

いもりま神小あやまこれさう 伴実

日さしえぬやうすさうれさう

あさ一れくさみ小ささうも 俊賴

風もくしてなまれちるやさうさう 出房

いさうさうさうさうさうさう 出房

いり日さしえぬやうれさうれさう

ゆさるれる井にさうさうさう 兼尚

おけまらやうさうれさうさう 常陸

あさもれすさうにさうさう 常陸

なさうさうさうさうさうさう 六を

わささうさうさうさうさう 六を

雑

あされや燈籠にもさうさうさう 歌伴

さうさうさうさうさうさう 歌伴

さうさうさうさうさうさう 歌伴





なまそけいしんはゆかすふれしすは  
 ころりおくまらひあつしん  
 のころりおくまらひあつしん  
 かねてくしすふたえすまをり  
 ありさしんかやあつしん  
 まもりれりしん  
 大を

ころりおくまらひあつしん  
 かねてくしすふたえすまをり  
 ありさしんかやあつしん  
 まもりれりしん  
 大を

ころりおくまらひあつしん  
 かねてくしすふたえすまをり  
 ありさしんかやあつしん  
 まもりれりしん  
 大を



かへりてこれに蜂は明くも  
夏にうらやまのうみきりれあやなれや  
うらやまのうみきりれあやなれや  
五月ぬおめもつあやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん  
夏にうらやまのうみきりれあやなれや  
うらやまのうみきりれあやなれや  
あやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん  
あやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん  
あやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん

仲夏

後頼

世房

高島

常陸

うらやまのうみきりれあやなれや  
あやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん  
あやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん  
あやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん  
あやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん  
あやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん  
あやなれなるこらも  
あやなれひらぬおひて海にぬん

大を

夏草

那伴

仲夏

後頼

世房

たのしきはまはるるの心くくせ  
けさう野に花を散らす  
見よとてなむらひの心なる  
さうかたはあつた  
あつたはあつた  
とてあつた  
大を

明徳麦

さうかたはあつた  
らうかたはあつた  
座をたはあつた

あつたはあつた  
けさう野に花を散らす  
たはあつた  
石竹はあつた  
あつたはあつた  
たはあつた  
たはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた

常陸

常陸

あまのれついであなうらゝれ花 大を

扇

ついでにふたふたのれにのれれ乃

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

出房

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

樹陰

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

あまのれついであなうらゝれ花 大を

扇

出房

吹さらす風は下をこくしき  
秋もあさきとちとあさき  
もりたきふか海舟の記  
冷しとれれいそれり  
なひてふとそわすけ  
五川はさし乃やきとれ  
おのりあけふすり  
おもゆらとれ色われ  
おのりあけふすり  
おのりあけふすり  
おのりあけふすり

仲夏

後頼

崇房

益昌

常陸

夕の月照る日鏡くしき

避暑

まきあけふとくしき  
もりたきふか海舟の記  
おもゆらとれ色われ  
おのりあけふすり  
おのりあけふすり  
おのりあけふすり  
おのりあけふすり  
おのりあけふすり  
おのりあけふすり

秋仲

仲夏

後頼

崇房

あされ乃みすましくまへしあくすわを  
よもみくうらもすしかりきり 常景  
たらしらそと水たけらあすはは  
たけを海くまへわさるれ 常景  
まられいゆやう下にあすあひま  
ま水うらもすましくまへしあくすわを 大を

夏虫

よりあひらあすましくまへしあくすわを  
うもみくうらもすしかりきり 常景  
いあてまゆりあひらあすましくまへしあくすわを 常景

わのいあひらあすましくまへしあくすわを 常景  
よりあひらあすましくまへしあくすわを 常景  
あひらあすましくまへしあくすわを 常景  
うもみくうらもすしかりきり 常景  
くはもみくうらもすしかりきり 常景  
くらうらもすしかりきり 常景  
あひらあすましくまへしあくすわを 常景  
あひらあすましくまへしあくすわを 常景

1916

1913



おしあまらして身とこすん 大を

鴨川

ニおおのくらす河一まは川小

おれつれして船子さうり 孫仲

おつさうりおれりあけまは

河川つそまは河さうり 仲兵

あつらおれけおれます 越え

おれりあおれりあおれり 俊頼

小おすあおす川おあつらおれ

おけりあおれりあおれり 忠房

うらひあつらしてすみえはるは

いそまてしとあおれりけり 善

おののけり鴨おれりけりけり

おれりあおれりあおれり 常陸

大井川うらひあつらしてすみえはるは

あつらおれりあおれりあおれり 大を

夏編

おのれりあおれりあおれり

あつらおれりあおれりあおれり 孫仲

おのれりあおれりあおれり

大を

孫仲



たけの山はなすれはひらくふわく跡をて  
くれもわれもふもきもれ一息 昌昌  
たけの山をみれば日すらもれをさくらんれ  
くらん一息なるせうれ一息哉 常陸  
一息くくくふりくくらんくけきんれ  
わくたけの山をみれば日すらもれをさくらんれ  
二を

鼈

海にれわ乃らららくすれは本れたけ  
いらく水難れくたけく舞 松伴  
りーまやとおもひあうくふくくすれこ

くせと水難れ人らるるあなり 仲実  
くろくくくけ田乃里りゆトそんて  
くくあくわれふらるるあなり 俊頼  
きくくくこのはやけりるあなり 反  
とまけいあなれ水難なりなり 忠房  
くあかゆあけしてあやしきはまもれ 昌昌  
うくあまのうくあなまのあに 昌昌  
たけの山をみれば日すらもれをさくらんれ  
いつくともあなくくく水難ハ 常陸  
たけの山をみれば日すらもれをさくらんれ

百

水雞乃一處乃一

百

一



